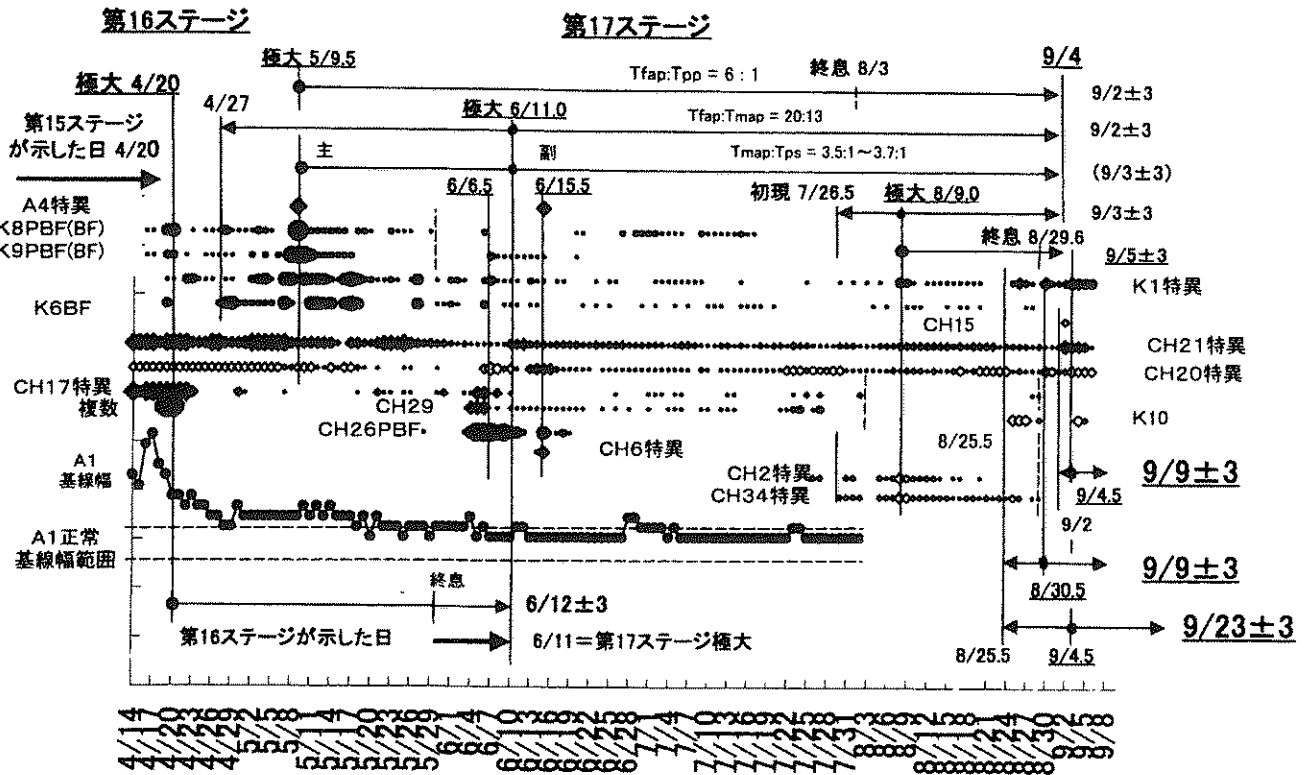


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 現況報告 9/7迄に発生無く 9/9±又は9/23±の可能性有



通常の地震前兆の前兆期間は、早い場合で数日、長い場合でも数ヶ月、過去例の最長前兆は2008年の宮城内陸地震で、3年3ヶ月でした。No.1778前兆は2008年07月から8年2ヶ月と云う観測例の無い長期継続特殊前兆です。この8年の間、別のM5以上地震や火山噴火は、一部No.1778前兆との分離が困難なものもありましたが、前兆を識別し、推定成功例は沢山あります。

No.1778は、最終段階にある認識です。地震前兆No.1778第17ステージと同じ時期に火山帯近傍地殻地震前兆（長野北部地震や熊本地震と同型前兆）も顕著に出現したため、最終段階認識。

第17ステージ前兆は 9/2±~9/5±時期を示す変動と認識していました。この時期に対応地震発生の可能性となるか、この時期に極大が出現するか、どちらかの可能性が考えられました。

本日の観測状況で、地震前兆が継続している観測装置は八ヶ岳CH20・CH21・高知K1。

9月初旬に八ヶ岳のCH21の特異が大きくなった他、高知観測点K1・K10の特異状態が顕著です。現在、CH21・K10の特異状態は弱くなっていることから、前兆顕著時期の中心=09月04日に極大認識ができます。

(前回この認識が可能なのは記しました)

但し08月30日にもK1・CH20が顕著なので、極大の可能性有。K1・K10特異が顕著に継続出現したのは08月25日昼からです。

これらのことを合わせ考察しますと、No.1778前兆第17ステージが示した 9/2~9/5±は「9/4 極大」である可能性が高い見解。

08月25日初現に対し、08月30日極大、さらにCH21特異が大きくなりだした09月02日初現に対し、09月04日極大と認識した場合には（最も早い場合の可能性）⇒ 9月9日±1 が計算可能。

08月25日初現に対し、09月04日極大と認識した場合には、⇒ 9月23日±3 が計算可能。

前述のとおり、本日迄の観測状況から、9月7日以前に対応活動が発生する可能性は考え難く、早い場合は9月9日±1、9月9日夜時点で前兆継続の場合は、少なくとも9月23日±等中旬以降となること示唆されます。前回、9月初旬が示された時期は発生時期ではなく、極大である可能性は記しましたが、前回段階での確定は困難でした。お詫び申し上げます。

◆推定領域：右図太線領域内付近（やや火山帯に近い領域の可能性有）

◆推定規模：M7.8±0.5  
※群発的地震活動の可能性も有

◆推定時期：可能性① 9月9日±1  
又は可能性② 9月23日±3  
※9月9日時点で前兆継続の場合は9月中旬以降の可能性高い。続報

◇推定地震種：震源浅い陸域地殻  
◇推定発生時刻：AM9:00±1 (or PM6:00±3)

